

かんちけん倶楽部

2011年度乾燥地研究センターの研究活動

■ UNCCD/COP10(砂漠化対処条約第10回締約国会議)に参加

平成23年10月、韓国 Changwon (昌原市) にて開催された UNCCD/COP10 (砂漠化対処条約第10回締約国会議) に参加し、当センター主催でサイドイベント「Asian dust and desertification」及び展示イベントを開催しました。

サイドイベントでは、当センターの篠田教授がコーディネータとして進行し、山中教授、Jugder 客員教授、韓国の Chun 先生が、それぞれの国の黄砂への取り組みについて講演をされ、多くの方にご来場いただきました。

また、UNCCD/COP10 に併せて開催された展示イベントでは、鳥取大学乾燥地研究センターと九州大学東アジア環境研究機構が共同で展示ブースを設置し、センターの概要紹介ポスター、グローバル COE プログラム、黄砂プロジェクトの紹介ポスターの掲示、センター紹介 DVD の上映、各種パンフレット類の配布を行いました。九州大学は研究内容の紹介ポスターを掲示、資料の配布を行いました。

展示ブースは、COP10 関係者以外にも広く一般の方が来場できる方式となっており、多くの方に見ていただき、質問に答えることでセンターが行っている研究や人材育成などの取り組みを紹介するなど、有意義なものとなりました。



(サイドイベントの様子)



(展示ブース)

2011年度乾燥地研究センターの活動報告

■ 天皇皇后両陛下がセンターをご訪問

鳥取県東部を会場として開催された「第31回全国海づくり大会」へのご臨席に併せ、平成23年10月30日に天皇皇后両陛下が本センターをご訪問になりました。

今回の訪問は、昭和41年皇太子皇太子妃時代に訪問になられて以来、45年ぶりの来訪となり、アリドドームでは、恒川センター長から概要説明を受けられた後、乾燥地で油を採取できる「ジャトロファ」の研究について説明を受けられました。また、アリド・ラボ研究棟では、根から塩水を吸収し、葉から塩分を排出する塩生植物「タマリスク」の研究と乾燥に強いコムギの研究を御覧になりました。



■ 国際ワークショップを開催(グローバル COE プログラム)

グローバル COE プログラム「乾燥地科学拠点の世界展開」では、シリア・国際乾燥地農業研究センター(ICARDA)と共催で、トルコ共和国・コンヤ市において、2011年12月7日～9日の期間、「International Workshop on Dryland Science for Food Security and Natural Resources Management under Changing Climate (気候変動下での食料保障と天然資源管理のための乾燥地科学に関する国際ワークショップ)」を開催しました。

このワークショップは、海外連携機関の一つである ICARDA とともにこれまで実施してきた共同研究、人材育成の成果を発表することを目的としたもので、2日間をかけ、研究発表とポスターセッションが行われ、鳥取大学、ICARDA のほか、トルコ、中国、ウズベキスタン、エジプト、スーダン、エチオピア、イタリアなどから関連機関の研究者が発表を行い、各分野において活発な意見交換を行いました。



2011年度乾燥地研究センターの活動報告

■ 黄砂シンポジウム(米子市)を開催

グローバル COE プログラム「乾燥地科学拠点の世界展開」では、平成 24 年 2 月 18 日（土）に、米子コンベンションセンター-BiG SHiP において、黄砂シンポジウムを開催しました。

このシンポジウムは、乾燥地研究センター、農学部、医学部などが実施しているグローバル COE プログラムの研究のうち黄砂研究の成果発表を中心に、一般市民を対象として、プログラムで実施している乾燥地研究への理解を深めてもらうことを目的として開催したもので、恒川篤史乾燥地研究センター長による「鳥取砂丘から世界の乾燥地科学へ」と題した講演、黄砂の発生源とその対策についての研究及び黄砂の生体（動物、ヒト）への影響に関する研究について発表がありました。



乾地研のひと（新任者紹介）

〈教授 辻本 壽〉

昨年 4 月に農学部から乾燥地研究センター生物生産部門に教授として着任いたしました。専門は遺伝育種学で、分子育種学分野を担当しています。胚培養技術により野生植物とコムギの雑種植物を作り、その子孫から少ない肥料で育つ系統や、優れた小麦粉を作る系統を開発しました。現在、乾燥や塩害に強い系統を開発しています。また、遺伝資源をもとめて、世界各地の植物探索に参加してきました。このような専門を生かし、コムギ以外の植物の研究も手がけ始めました。



〈助教 アミン エリタエブ〉

昨年 4 月に乾燥地研究センター生物生産部門の助教に着任いたしました。スーダン出身です。鳥取大学大学院連合農学研究科で博士号を得ました。専門は生物工学で、新規遺伝子の単離や遺伝子組換えによる耐乾性作物の開発を行っています。すでにビタミンCを高めてストレスに強いタバコやジャガイモを作りました。これからは、コムギなどの穀物を用いて、乾燥地の食糧問題の解決に貢献しようと考えています。



■ 宿泊施設(ゲストハウス)が完成

センターの共同研究者等が研究及び研修等でセンターを利用する際の宿泊施設(名称:ゲストハウス)が、平成23年8月に完成し、多数の方に利用していただいています。

建物は延べ床面211.7㎡の鉄骨造り平屋建てで、外観は、砂丘の風紋をイメージしたものとなっており、宿泊室は、シングル4室、ツイン2室で、他に、多目的に使える和室12帖の研修室や、滞任者が利用できるキッチンや洗濯機等も設置されています。

当センターには、これまで、敷地内に宿泊施設がなく、学外研究者に不便をかけていましたが、この宿泊施設が完成したことで、研究に集中できる環境整備が進み、さらなる研究の推進が期待されます。



○ ミニ砂漠博物館に第2展示室を整備

土日・祝日に開館している乾燥地学術展示室(ミニ砂漠博物館)に、従来からある砂漠化や乾燥地農業技術の紹介に加えて、乾燥地域の民族に関わる展示として、新たに第2展示室を整備し、モンゴルのゲルや各国の民族衣装、農機具などを展示しています。



○ 乾燥地学術標本展示室等の休日公開

乾燥地研究センターでは、土・日・祝日に「ミニ砂漠博物館」を公開しています。

乾燥地研究センターへのアクセス

【ループ麒麟獅子号】

土・日・祝日(元日は除く)・夏休み(7月20日～8月31日は毎日)運行

運行時間等詳細は、鳥取市観光協会ホームページ「ループ麒麟獅子バス」を参照してください。 URL : http://www.torican.jp/roop_bus/



【とっとり乾地研倶楽部の設立趣旨】

砂漠化防止や乾燥地農業について世界的に貢献している鳥取大学乾燥地研究センターは、世界の乾燥地研究ネットワークの中核として学術研究、人材育成に大きな役割を果たしており、地域にとっても世界に誇るべき知的財産です。

そこで、鳥取大学乾燥地研究センターの活動を地域で支え、その研究活動と研究成果を広く情報発信することを通じてこの地域の発展を図るために「とっとり乾地研倶楽部」を設立しました。

発行：とっとり乾地研倶楽部事務局
鳥取商工振興協会 〒680-0031 鳥取市本町3丁目201番地
TEL (0857) 26-6886 FAX (0857) 22-0155